

# 特許検索における質問意図の 曖昧化

中川研 胡 瀚林  
指導教員：中川 裕志 教授

2016 年 1 月 31 日

## ① 背景紹介

## ① 背景紹介

# 特許

## 特許とは？

- 特許法第1条には、「この法律は、発明の保護及び利用を図ることにより、発明を奨励し、もつて産業の発達に寄与することを目的とする」とある。
- 特許制度は、発明者には一定期間、一定の条件のもとに特許権という独占的な権利を与えて発明の保護を図る一方、その発明を公開して利用を図ることにより新しい技術を人類共通の財産としていくことを定めて、これにより技術の進歩を促進し、産業の発達に寄与しようというものである。

# 特許

## 特許を取る条件

- （新規性：特許法 29 条第 1 項）特許出願前に公然知られた発明，公然実施をせれた発明，頒布された刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明について特許を受けることができない．
- （進歩性：特許法 29 条第 2 項）特許出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が前項各号に掲げる発明に基いて容易に発明をすることができたときは，その発明については、同項の規定にかかわらず，特許を受けることができない．

# 特許検索

検索タイプ	検索対象	検索目的
技術水準調査 (State of the Art Search)	アイデア	発明に関連する背景知識を得る
新規性調査 (Novelty Search)	特許文章	特許登録の可能性を判断する
無効資料調査 (invalidity Search)	特定な特許	発明の特許性の有無を判断する
侵害調査 (Infringement Search)	商品と 商品に関連する技術	権利侵害とならないかを判断する